

⑯ 日本国特許庁 (JP)

⑮ 特許出願公開

⑯ 公開特許公報 (A) 昭63-270893

⑰ Int.Cl. * C 14 C 14 識別記号及び内整理番号

⑯ 公開 昭和63年(1988)11月8日

⑰ D 21 H 3/02 C 08 K 5/04 C 08 L 33/14 L HW L JV 7003-4L 7167-4J 7167-4J

⑰ C 08 L 33/24 L JV 7167-4J 検索請求 未請求 発明の数 1 (全6頁)

⑯ 発明の名称 製紙用サイズ剤組成物

⑯ 特願 昭62-106033

⑯ 出願 昭62(1987)4月28日

⑯ 発明者 石川 好秀 兵庫県加古川市加古川町木村91番地

⑯ 発明者 浜田 正男 兵庫県加古川市野口町長砂240番地の10

⑯ 出願人 揚磨化成工業株式会社 兵庫県加古川市野口町水足671番地の4

⑯ 代理人 弁理士 竹安 英雄

明細書

1. 発明の名称

製紙用サイズ剤組成物

2. 特許請求の範囲

1 カチオン性ビニルモノマー 15～75モル%、
芳香族ビニルモノマー 5～40モル%、水溶性非
イオン性ビニルモノマー 5～50モル%及び炭素
数8～22の炭化水素基を有する疎水性ビニルモノ
マー 1～15モル%を含む水溶性又は分散性
コポリマーと、疎水性物質とを含有することを特
徴とする、製紙用サイズ剤組成物

2 カチオン性ビニルモノマーが、ジメチルアミノ
エチルメタクリレートであることを特徴とする、
特許請求の範囲第1項記載の製紙用サイズ剤組成物

3 カチオン性ビニルモノマーが、メタクロイルオ
キシエチルトリメチルアンモニウムクロライドで
あることを特徴とする、特許請求の範囲第1項記
載の製紙用サイズ剤組成物

4 カチオン性ビニルモノマーが、N,N-ジメチルア

ミノプロピルアクリラマイドであることを特徴
とする、特許請求の範囲第1項記載の製紙用サイ
ズ剤組成物

5 芳香族ビニルモノマーがステレンであることを
特徴とする、特許請求の範囲第1項記載の製紙用
サイズ剤組成物

6 水溶性非イオン性ビニルモノマーが、アクリル
アマイドであることを特徴とする、特許請求の範
囲第1項記載の製紙用サイズ剤組成物

7 水溶性非イオン性ビニルモノマーが、メタアク
リラマイドであることを特徴とする、特許請求
の範囲第1項記載の製紙用サイズ剤組成物

8 疎水性ビニルモノマーが、2-エチルヘキシルメ
タクリレートであることを特徴とする、特許請
求の範囲第1項記載の製紙用サイズ剤組成物

9 疎水性ビニルモノマーが、ラウリルメタアクリ
レートであることを特徴とする、特許請求の範囲
第1項記載の製紙用サイズ剤組成物

10 疎水性ビニルモノマーが、ラウリルメタアク
リレートであることを特徴とする、特許請求の範

明細書第1項記載の製紙用サイズ剤組成物:

11. 疎水性ビニルモノマーが、ステアリルメタアクリル酸による縮合によって形成された紙がボロボロになる、いわゆる酸性紙の問題が生じることを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の製紙用サイズ剤組成物。

12. 疎水性物質がアルキルケテンダイマーである且つアルカリ性での抄造に关心が払われ、セルローズことを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の製紙用サイズ剤組成物。

3. 発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は、製紙用のサイズ剤組成物に関するものであって、特にアルキルケテンダイマー系サイズ剤に関するものである。

従来の技術

従来から製紙用サイズ剤としてはロジン系サイズ剤が汎用されている。しかしながらロジン系サイズ剤においては、定着剤として硫酸バンドが不可欠であり、抄造工程において抄造系の液が酸性を示すと、設備を損傷するなどの問題があった。

またこのサイズ剤を使用して抄造した紙を長期間保存すると、硫酸バンドが分解して酸を生じ、その

酸によって繊維が著しく劣化して紙力が低下し、そのため近年硫酸バンドを使用せず、中性又は

アルカリ性分散剤で分散したものが開発され、広く使用されるようになっていている。

このアルキルケテンダイマー系サイズ剤は、アルキルケテンダイマーをカチオン濃粉等のカチオン性分散剤で分散したものであって、

これを使用して中性又はアルカリ性の条件下で抄造して得られた紙は、その繊維間の結合が強く、

紙力が向上すると共に、紙力が安定して経時変化

が見られず、長期間保存した場合においても紙力を維持し、充分に使用に耐えるものである。また

抄造工程が中性又はアルカリ性の条件下で行われるので、設備の腐蝕も生じない。さらに紙の填料として炭酸カルシウム粉等も有利に使用すること

ができる。

発明が解決しようとする問題点

本発明は、どのように、アルキルケテンダイマー系サイズ剤は、0モル%及び炭素数8~22の炭化水素基を有する疎水性ビニルモノマー1~15モル%を含む水溶性又は水分散性コポリマーと、疎水性物質とを併用するが、アルキルケテンダイマーは本来反応性に富む水溶性又は水分散性コポリマーと、疎水性物質とを併用するが故に、貯蔵中に分散系が不均一化し、含有することを特徴とするものである。

となりがちであり、貯蔵安定性に欠けるという欠点がある。そこで、本発明のサイズ剤は、疎水性物質と、水溶性又は水分散性コポリマーとを含有しており、水溶性

又は水分散性アルキルケテンダイマー系サイズ剤は、抄造又は水分散性コポリマーは、カチオン性ビニルモノマー1.5~7.5モル%、芳香族ビニルモノマー5~40モル%、水溶性非イオン性ビニルモノマー5~50モル%及び炭素数8~22の炭化水素

本発明はかかる事情に鑑みなされたものであつて、基を有する疎水性ビニルモノマー1~15モル%を含む抄造後のサイズ効果の発現が遅いという問題も有しない。

に亘って貯蔵しても均質な分散状態を損うことなく、性能の劣化することのない、特にアルキルケテンダイマー、置換コハ

ケテンダイマー系に適した製紙用サイズ剤を提供する。又はク酸無水物等が適用される。

することを目的とするものである。また、アルキルケテンダイマーは、一般構造式

R₁-CH=CH-C(=O)-R₂、R₁、R₂は、

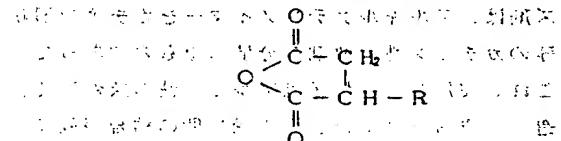
而して本発明は、カチオン性ビニルモノマー1.5~7.5モル%、芳香族ビニルモノマー5~40モル%及びR₁は、それぞれ炭素数8乃至15モル%、水溶性非イオン性ビニルモノマー5~50モル%、好まじくは12~22の炭化水素基を示

す。) は、(略) と、(略) と、(略)

で示されるものであつて、その例として、オクタメチド、N,N-ジメチルアミジテロヒルアクリルアマイデシルケテンダイマー、ヘキサデシルケテンダイマー等が挙げられる。

さらに水溶性非イオシン性ビニルモノマーとして

トナシーカトまた置換コハク酸無水物は、 α -般構造式



(Rは炭素数8~26の炭化水素基を示す。)で示されるものである。

本発明におけるコポリマーに含まれるカチオン性ビニルモノマーとしては、アクリル酸又はメタクリル酸と、第三級若しくは第四級アミノ基を有するアルコール又はアミンとのエステル又はアマドードが適当である。その具体的な例としては、ジメチルアミノエチルメタクリレート、メタクロイ

ルオキシエチルトリメチルアンモニウムクロライド

ド、M,N-ジメチルアミンテ古ビルアクリルアマイド等が挙げられる。

また本発明における芳香族ビニルモノマーとしては、ステレシ又はその誘導体を使用することが

さらに水溶性非イオニ性ビニルモノマーとしては、アクリルアマイド又はメタクリルアミドが適当であり、さらにN-ビニル-2-ヒロリドン、2-ヒドロキシエチルアクリレート、2-ヒドロキシエチルメタクリレート、ポリエチレングリコールモノメタクリレート、メトキシポリエチレングリコールメタクリレート、ジアセトジアクリルアミド等を使用することも可能である。

さらに本発明において使用する疎水性ビニルモノマーとしては、炭素数8～22の炭化水素基を有するものであって、アクリル酸又はメタクリル酸と炭素数8～22のアルキルアルコールとのエステルが適当であり、その具体例としては、2-エチルヘキシルメタクリレート、ラウリルメタク

カチオニ性ビニルモノマーを15～70モル%、水溶性非イオニ性ビニルモノマーを5～50モル%、疎水性ビニルモノマーを1～15モル%の割合で共重合したものであり、さらに他のビニルモノマーが水と反応してサイズ効果を損なう恐れがあるモノマーとして、アクリロニトリル等を共重合するので、100℃以下に好ましくは80℃以下とすることもできる。

共重合反応は、前述の各モノマーの混合物を用いて、また本発明のサイズ剤組成物には、サイズ効果溶媒中においてラジカル反応開始剤の存在下で重合上を損わない範囲内において、分散安定剤、乳化剤、合せしめることにより行われる。反応系の溶媒としては、定着剤等を添加することもできる。分散安定剤としては、エタノール、イソブロパノール、1-ブタノール等が乳化剤としては、市販のものの中から適当なものノール、メチルエチルケトン、トルエン等が使用される。また反応開始剤は、使用する溶媒に溶解される。また反応開始剤は、定着剤としては、カチオン性高分子物質が好ましい。具体的には、カチオン化澱粉、カチオン化ルニトリル、2,2'-アゾビス-(2,4-ジメチルパリマー)、セルロース、ポリアミド、エビハロヒドリン系ボレロニトリル)等が適当である。

本発明の製紙用サイズ剤は、上記2ポリマーと、アーバン及びその四級化合物、ポリジメチルアミノエチルメ

また本発明のサイズ剤組成物には、サイズ効果

を損わない範囲内において、分散安定剤、乳化剤、定着剤等を添加することもできる。分散安定剤、

乳化剤としては、市販のものの中から適当なものを選択すれば良い。

定着剤としては、カチオン性高分子物質が好ましい。具体的には、カチオン化澱粉、カチオン化

セルロース、ポリアミド、エビハロヒドリン系ポリマー、テボリエチレンイミン、テボリビニルビリジ

【請求項】

タクリレート及びその四級化物並びにこれらのモノマーとアクリルアミドとの共重合物等を挙げることができる。

また本発明のサイズ剤組成物は、ホモミキサー、ホモジナイザー、乳化器等を使用して、水不溶性物質の粒子径を、5μ以下、好ましくは1μ以下に整えるのが望ましい。粒子径が大きいと、サイズ剤の安定性が劣り、またサイズ剤としての性能も低下する。

本発明のサイズ剤組成物のバルプに対する添加量は、目的とする紙に要求されるサイズ度に応じて変化するが、バルプに対して0.01~2重量%が適当である。

発明の効果

而して本発明によれば、抄紙後のサイズ効果の発現が早く、且つ長期に亘って貯蔵しても均質な分散状態を損うことがなく、性能の劣化することのない、特にアルキルケテンダイマー系として適した製紙用サイズ剤を提供することができるのである。

実施例

以下本発明の実施例を説明する。

コポリマーの合成

イソプロピルアルコール100gを、搅拌機、温度計、還流冷却器及び滴下漏斗を備えた500cc四つ口フラスコに仕込み、窒素ガスで充分脱気した後還流温度まで昇温する。

前記各モノマーを合計100g、イソプロピルアルコール100g及びアゾビスイソブチル二トリル1.0gの混合液を2時間かけて滴下する。さらに5時間その温度に保ちながら反応溶液中のイソプロピルアルコール約100gを溜去する。然る後温水400gを加え、加温してイソプロピルアルコールを溜去する。さらに温度及びpHを調整し、固形分濃度20重量%、pH3~5のポリマーの水溶液又は分散物を得た。これを合成例1~5及び比較合成例1~4とする。

各合成例及び比較合成例における各モノマーの組成は次の表1に示す通りである。なお組成

表1 各モノマーの組成(モル%)である。

モノマー	合成例				比較合成例				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4
カオノン性ビニルモノマー	20	35	50	55	60	20	35	50	55
ジメチルアミノエチルメタクリレート	20	35	50	55	60	20	35	50	55
メタクロイルオキシエチルトリメチルアンモニウムクロライド	30	20	20	20	20	30	30	30	30
N,N-ジメチルアミノプロピルアクリルアミド	30	20	20	20	20	30	30	30	30
芳香族ビニルモノマー	30	30	25	35	20	30	40	40	40
ステレジン	30	30	25	35	20	30	40	40	40
水溶性非イオン性ビニルモノマー	37	27	30	20	14	40	55	45	44
アクリルアミド									
メタクリルアミド									
耐水性ビニルモノマー									
2-エチルヘキシルメタクリレート			10			11			
ラウリルメタクリレート		3		5		5			
ステアリルメタクリレート		3		6		3			

アルキルケテンダイマーの調製

前記各モノマー硬化牛脂脂肪酸クロライドを、ベンゼン中に於いてトリエチルアミンの存在下で反応させ、混合アルキルケテンダイマーを得た。このアルキルケテンダイマーについてモリメチルアミン消費量測定法によりアルキルケテンダイマーの純度を測定したところ、その消費量は50mg/40gであった。

サイズ剤組成物の調整

前記アルキルケテンダイマー160g(実施例6及び7については210g)を70℃に加熱し、これに前記各合成例及び比較合成例のコポリマーの水溶液又は分散物200gと水640g(実施例6及び7については590g)を添加して混合した。これを70℃に加熱しながらホモミクサーで5分間予備分散させた後、同温度でピストン型高圧乳化機(300kgf/cm²)に1回通して分散させた。然る後直ちに冷却し、実施例1~7及び比較例1~4の、アルキルケテンダイマー分散液を得た。各分散液の固形分

は、20重量%である。

各実施例及び比較例の組成は、次の表2に示す通りである。

表2 各実施例及び比較例の組成

サイズ剤 組成物	アルキルケテン ダイマー系 (重量%)	コポリマー (重量%)
実施例1	1.6	4(合成例1)
実施例2	1.6	4(合成例2)
実施例3	1.6	4(合成例3)
実施例4	1.6	4(合成例4)
実施例5	1.6	4(合成例5)
実施例6	2.1	4(合成例1)
実施例7	2.1	4(合成例3)
比較例1	1.6	4(比較合成例1)
比較例2	1.6	4(比較合成例2)
比較例3	1.6	4(比較合成例3)
比較例4	1.6	4(比較合成例4)

各実施例及び比較例で得られた分散液を30°Cの温度で貯蔵して、1ヶ月後の性状の変化を見た。

安定性試験の結果は、次の表3に示す通りであつた。

例	性状
実施例1	製造直後と性状はほとんど変化なし
実施例2	表面が粗い
実施例3	表面が粗い
実施例4	表面が粗い
実施例5	表面が粗い
実施例6	表面が粗い
実施例7	表面が粗い
比較例1	やや増粘、析出粒子が見られる
比較例2	増粘し、クリーム状
比較例3	表面が粗い
比較例4	2層に分離し、上部はクリーム状

サイズ剤性能試験

次に、製紙用サイズ剤としての性能を試験した。この試験においては、比較として、市販のアルキルケテンダイマー系サイズ剤(不揮発分20重量%、pH3.1~4.0)についても併せて試験した。

試験方法

カナディアン・スタンダード・フリーネス410mlのバルブ(LBKP/NBKP=7/3)の2%水性スラリーに、填料として重質炭酸カルシウム粉をバルブ固形分に対して20重量%及び、サイズ剤として各実施例及び比較例の水性分散液を含有不揮発分の対バルブ固形分比率として0.1~1.5重量%を、それぞれ添加した後、タッピングスタンダード・シートマシンを使用して抄紙した。得られた湿紙を5kg/m²で1分間プレスして脱水し、湿紙水分含有量を60±1%とした。

この湿紙を回転式ドラムドライヤーで90~95°Cで8~10秒間乾燥して手抄紙を得た。得ら

れた手抄紙の秤量は64±2g/m²のものであった。

試験1

この手抄紙について、抄紙した後直ちにステキヒトサイズ度(JIS-R-8122)を測定した。

試験2

また前述の手抄紙について、抄紙した後20°C、湿度65%の条件下で2~4時間調湿処理をして、然后、同様にステキヒトサイズ度を測定した。

特開昭63-270893(6)

試験結果 本発明のサイズ剤ではサイズ度が大幅に低下しているにも拘らず、
試験結果を表4に示す。これより本発明のサイズ剤ではサイズ度の低下はほとんど

表4

サイズ剤 組成物	添 加 量 (%)	ステキヒトサイズ度(秒)	
		試験1	試験2
実施例1	0.15	14.2	20.2
実施例2	"	12.8	19.5
実施例3	"	12.5	19.5
実施例4	"	12.0	19.3
実施例5	"	11.5	18.3
実施例6	"	15.0	21.2
実施例7	"	14.0	21.0
市販品	"	7.3	16.5

先の安定性試験の結果及び上記表からも明らかのように、本発明の製紙用サイズ剤は、調製した後長期間の保存に対して極めて安定であって、性状の変化がない。また本発明のサイズ剤を使用して抄紙した紙は、サイズ度が高く、しかもサイズ効果の発現が早い。さらに長期間保存した後のサイズ剤を使用した場合においては、従来のサイズ

従って本発明のサイズ剤は、中性紙を製造するためのアルキルケテンダイマー系製紙用サイズ剤として、極めて優れた性能を有するものであることが理解できる。

出願人 摂磨化成工業株式会社

代理人 弁理士 竹安英雄

